あんなに短い曲だけれども、ここでもみんなかなり本気になって聞いてたぞ。一週間か十日の間にずいぶんと仕上げたなあ十日前と比べたらまるで赤ん坊と兵隊だ。やろうと思えば、いつでもやれたんじゃないか、君だって。」仲間もみんな立ってゴーシュの方へ来て、「よかったぜ」と言いました。「いや、体が丈夫

だからこんなこともできるんだよ。普通の人なら死んでしまうだろうな」楽長が向こうで言っていました。その晩、遅くにゴーシュは自分のうちへ帰って来ました。そしてまた水をがぶがぶと飲みました。それから窓をあけて、いつかのカッコウの飛んでいったと思う遠くの空をながめながら、「ああカッコウ、あの時

はすまなかったなあ。オレは怒ったんじゃなかったんだ。」とつぶやきました。ゴーシュは今日もひいています。ドアのたたく音を聞きながら。ゴーシュは町の音楽隊で、セロをひく演奏家でしたけれどもあんまり上手でないという評判でした。上手でないどころではなく、実は仲間のがくしゅの中では一番下手でした

から、いつでも楽長にいじめられているのでした昼すぎみんなは楽屋にまるく並んで、今度の町の音楽会へ出す第六交響曲の練習をしていました。トランペットは一生懸命歌っています。バイオリ